【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成19年2月22日(2007.2.22)

【公開番号】特開2005-197895(P2005-197895A)
【公開日】平成17年7月21日(2005.7.21)
【年通号数】公開・登録公報2005-028
【出願番号】特願2004-666(P2004-666)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　1/19　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　1/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　1/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　1/04　１０３Ｅ
Ｈ０４Ｎ　1/00　Ｃ
Ｈ０４Ｎ　1/12　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成18年12月22日(2006.12.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
シートスルーＡＤＦを用いて、または、原稿台に原稿を乗せて原稿を読み取る画像読み取り装置において、
基準白板と回転可能な白色ローラを有し、シートスルーＡＤＦを用いて画像を読取る場合は、前記白色ローラをゴミ検知に必要なライン数読取ることで、前記読み取り部のコンタクトガラスに付着したゴミを検知することを特徴とする画像読み取り装置。
【請求項２】
シートスルーＡＤＦを用いて連続画像読み取りを行う場合に、紙間に前記白色ローラをゴミ検知に必要なライン数読み取ることを特徴とする請求項１に記載の画像読み取り装置。
【請求項３】
前記白色ローラは、一定速度で回転することを特徴とする請求項１又は２記載の画像読み取り装置。
【請求項４】
白色基準の白板と前記白色棒の白レベルを読み取り、前記白色棒の汚れを検知することを特徴とする請求項１ないし３のいずれか１項に記載の画像読み取り装置。
【請求項５】
前記白色棒の汚れを検知した場合、ユーザに前記白色棒のガラス部が汚れていることを通知することを特徴とする請求項１ないし４のいずれか１項に記載の画像読み取り装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】

上記の課題を解決するために、請求項１に記載の発明は、シートスルーＡＤＦを用いて、または、原稿台に原稿を乗せて原稿を読み取る画像読み取り装置において、基準白板と回転可能な白色ローラを有し、シートスルーＡＤＦを用いて画像を読取る場合は、前記白色ローラをゴミ検知に必要なライン数読取ることで、前記読み取り部のコンタクトガラスに付着したゴミを検知する画像読み取り装置を特徴とする。

また、請求項２に記載の発明は、シートスルーＡＤＦを用いて連続画像読み取りを行う場合に、紙間に前記白色ローラをゴミ検知に必要なライン数読み取る請求項１に記載の画像読み取り装置を特徴とする。

また、請求項３に記載の発明は、前記白色ローラが一定速度で回転する請求項１又は２記載の画像読み取り装置を特徴とする。

また、請求項４に記載の発明は、白色基準の白板と前記白色棒の白レベルを読み取り、前記白色棒の汚れを検知する請求項１ないし３のいずれか１項に記載の画像読み取り装置を特徴とする。

また、請求項５に記載の発明は、前記白色棒の汚れを検知した場合、ユーザに前記白色棒のガラス部が汚れていることを通知する請求項１ないし４のいずれか１項に記載の画像読み取り装置を特徴とする。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】

本発明によれば、基準白板と回転可能な白色ローラを有し、シートスルーＡＤＦを用いて画像を読取る場合は、前記白色ローラをゴミ検知に必要なライン数読取ることで、前記読み取り部のコンタクトガラスに付着したゴミを検知するため、生産性を下げることなくごみ検知を行うことができる。

シートスルーＡＤＦの原稿読み取りの場合、読み取りの生産性が重要となるが、紙片などにより発生する黒すじを検出するために、生産性を低下させることはない。また、一定に回転する白色棒を読み取ることにより、キャリッジを移動することなく白色棒をゴミ検知に必要なライン数読み取ることができる。